

過去の「社会人現場実習参加者報告書」より、抜粋

## 1. まとめ、及び感想

- ・石炭関連の業務に携わるようになってからちょうど一年が経過しました。この一年間で多くの資料や文献、データを見て、知ることができました。また営業という仕事を通じて各需要家のニーズや経済性についても学ぶことができました。  
しかし、今回参加させていただいた研修のように山元から輸出までの工程を自分の目で見る機会はほとんどありませんでした。今まで文章のみだった調査、開発、採炭、選炭、出荷までの一連の流れが、実際の現場や使用されている設備/機材を見ることによってはっきりと理解できました。また個人的に特に興味深かったのが、Mines Rescueでの研修でした。一見石炭の営業業務とは直接関係はありませんが、現場の安全性を支える重要な組織であり、ひいては石炭の安定生産に大きく貢献しております。また安全に対する危機意識の高さを象徴していました。
- ・石炭業界に入って間もない自分にとっては、炭鉱、関連施設への見学がもちろんのこと、業界人との交流もでき、予想以上の収穫があった。特に、今回見学した炭鉱の殆どは当社との業務接点がなく、通常なら立入り禁止のはずだが、JCOAL研修のおかげでいろいろと見せて頂きとても勉強になった。今回の研修を通して、常にBuyerの目線を意識し、現場や地域の実態を念頭において仕事を進めていかないといけないことを実感した。また、現場の安全管理、安心対策、環境への配慮など生活の一翼を担っていることを改めて気付かされた。今回の研修で貴重な経験をさせて下さったJCOAL関係者の皆様に、そして炭鉱現場のお世話になった皆様に対し、お礼を申し上げたい。
- ・炭鉱の安全教育から、石炭の採掘面、使用面、物流面をカバーし、現場を非常に効率良く理解できるプログラムであったと思う。炭鉱については、3つの炭鉱（露天掘り3箇所と坑内掘り2箇所）を見ることができ、またそれらは各々異なる特徴を持った炭鉱であったことから、マイニングについての知識、理解が深まった。その他、Newcastle港を始め、石炭業界で常に話題となる場所を見学することが出来、それらについてより具体的なイメージを持てたことが大きな収穫であった。今回の研修を終えると、また暫く現場と関わる仕事からは遠ざかるが、今回の経験を生かして今後の業務に取り組みたい。また、今回の研修で得た知識は、今後自ら石炭の知識を深めていく上で大きな手掛かりとなるものであると確信している。
- ・まず、オーストラリアの炭鉱を視察したなかで最も印象に残っていることを一言で表現すれば、鉱山現場において、オーストラリアの鉱山従事者は明るく、楽しんで仕事に取り組んでいる、ということである。次に、何よりも、坑内に入坑できたこと、また、

オーストラリアならではの大規模露天掘炭鉱を、自分の目にしっかり焼きつけることができ本当に良かった。石炭関係のテキストに幾度となく登場してきたキーワード、例えば"ドラグライン"、"ハイウォール・マイニング"、"コンティニューアスマイナー"などを実際に自分の目で確認したことによって、想像から現実のものとなって感激している。ぜひこのような研修を来年度以降も続けていただき、石炭関連の仕事に従事していて、石炭採掘現場を見たことがない若手達に、小員達が体験できた有意義で素晴らしい研修を同じように体験させてあげたいと切に願う。当該研修の募集要項に記載があった通り、直接現場に足を踏み入れることで、石炭資源開発・利用に関する現状について理解を深めることができると確信している。

## 2. 当該研修事業に対する所感

- ・大変有意義な研修となり、石炭エネルギーセンターの皆さまをはじめ、就業中のお忙しい中、見学させて頂いた施設の皆さまに感謝いたします。感想部分でも書きましたが、今回は石炭の全体的な流れを体感することができ、大変参考になりました。文章や写真、動画だけではこの流れを把握することは難しく、このような機会に恵まれ幸運でした。この経験を今後の業務に生かしたいと思います。
- ・今回の研修において、限られた時間内ではあったが、非常に密度の濃い体験（午前には坑内掘り、午後には露天掘りの見学、石炭採掘から発電利用までの一連の過程を見学）をさせて頂いた。このような企画は、個々の企業が人材育成の一環として催す事は利害関係等もあってほぼ不可能かと思われる点を考慮すると、本研修事業への参加は、参加者にとって非常に有意義であると感じた。
- ・ぜひ継続的に行っていただきたい。またよりバラエティな炭鉱を多数に視察することにより、炭鉱あるいは石炭事業に対する理解をいろんな角度、現地状況から深められるのではと期待。
- ・石炭ビジネスに係るようになって2年程であるが、これまで実際に現場に行き、石炭に触れる機会はあまり無かった。今回、採炭の現場、積出港等を見学することで、スケールを体感し、現場でなくてはわかりづらい設備、技術について理解を深める大変貴重な機会を得ることができた。石炭の仕事、取り分けデリバリーや市況情報収集といった業務になると、電話やパソコン等でも用が足りる面も多く、私自身を含めておそらく現在日本の多くの若手石炭業務従事者は、現場に触れる機会が殆どないまま、書類のやり取りやインターネット等での情報収集に追われる日々を過ごしていると察せられる。しかし今回の研修で現場を見学し、これまで聞いて得てきた知識を、経験の伴ったものに変えることができ、業務に対するモチベーションも大きく高まった。今

回は炭鉱だけでも特徴のある3箇所を見学させて頂くことができたが、これは一企業の研修では不可能なプログラムであり、また研修を受けたメンバーについては、同業者の方も他業者の方もおられたが、約一週間行動を共にし、様々な議論を交わす中で、企業を越えた、日本の石炭業務従事者としての連帯感のようなものが生まれたように感じる。今回の研修は、石炭関連業務に従事する若手社会人を対象としたものであったが、世界的にエネルギー資源の需要が大きく伸びていく中、石炭資源の殆どを輸入に頼る日本において、石炭業務従事者が“石炭の現場を知ること”、“企業を超えたネットワークを築くこと”の2点は今後必要不可欠であると考えられる。このような研修事業が継続され、今後よりいっそう盛り上がるようになっていくべきであると考え